

平成29年6月12日
東部農林振興センター 松江農業普及部

標題 「(農) やない」が「たんぼのいきものしらべ」を実施

(ダイジェスト)

「農事組合法人やない」(耕作面積約6.8ha)は、できるだけ環境に負荷をかけない農法での米づくりに取り組んでおり、その一環として生きもの調査等の交流も行っています。

6月10日、地域の子供たちや繋がりのある親子を招いて、冬期湛水・不耕起・無農薬の水田で「たんぼのいきものしらべ」を開催しました。

松江市玉湯町にある農事組合法人やないは、環境に負荷をかけない農法により「エコロジー米」「古代米(紫黒米)」、冬期湛水・不耕起・無農薬の「柳井とんぼ米」などを販売しています。農業の有する多面的機能を維持・発揮する取り組みの一環として、柳井地区農村環境向上協議会と共同で、交流の場づくりと水田環境の変化を調べることを目的とした生きもの調査を実施しました。

調査当日は、こども12名を含む33名の参加があり、たんぼの中を調査する班と水路の生きものを調べる班に分かれて、約1時間の調査を行いました。

講師には、「ミナミアカヒレタビラ研究所」の古林(こばやし)副会長を招いて、捕まえたアメリカザリガニやトノサマガエルのオタマジャクシなど23種類の生きもの名前や生態などの説明を受けた後、地域の方が飼っているヤギと触れ合ったり、昼食には、法人が栽培した黒米・玄米・白米の3種類のおにぎりや法人の代表が宍道湖で釣った魚を焼いて食べたりして、楽しいひと時を過ごしました。

この法人は、県農業技術センターが開発した株間除草用回転ブラシを取り付けた水田除草機による有機栽培にも取り組んでおり、引き続き連携を図りたいと考えています。



たんぼの調査



水路の調査



交流の時間